



一  
菴



深くとも流きりりり社川  
 何れもなきもえま出まはるはの目  
 秋の萩乃静さうつさふふ上  
 風乃吹音をよくなるとすまうが  
 西家と踏く村の橋路をたたく雀  
 文筆を引くくくくくくくく  
 松人々乃とせきしもヤキヤキ  
 さり秋もさうくぬ路のつてあ  
 秋風も枝の鳥此りし真ふ  
 今秋の秋人の往来と見てきき  
 病中  
 百言よれ飯の白ひや秋乃月  
 其病床と泣ひ  
 這出よ起し津ま夜もたつの内  
 月の山セ秋の静を待りすむ  
 書乃粉のこみぬく富の枝をし  
 夜早りの虫せみきくぬく鳥の上  
 山里やまのふられくくくく月  
 朝風乃せうくには枯梗外  
 秋うさのよつち路をま本権垣  
 野ふした跡せまれば三弁の境  
 菊語のさうぬくさう。不登さ  
 えの萩乃白ひをえのまうく外  
 書櫛を先ぬれぬく秋の風  
 大句風や日脚のよる。芒の種  
 せりしるは日和を屋やまも  
 は編入乃きくくくくくくく

七道  
 市野  
 玄唐  
 可堂  
 巴同  
 才居  
 重り  
 松翁  
 吉國  
 玉校  
 草丸  
 漫  
 白狼  
 槐切  
 午人  
 花曉  
 蒲丈  
 松夕  
 草之  
 三花  
 初香  
 黄路  
 田守  
 南丘  
 雲中